

第3学年1組 社会科学習指導案

授業日 平成28年11月9日(水) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 八幡 昌樹

会場 3年1組教室

1 単元名 昔の道具とくらし

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第3・4学年内容(5)アを受けて設定したものである。

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

本単元では、古くから残る暮らしにかかわる道具を調べることを通して、それらを使っていた頃の暮らしの様子を学習し、道具には昔の人々の生活をよりよくしたいという願いに基づいた知恵や努力があること、道具が変化するとともに人々の生活も変化させてきたことをとらえられるようにする。

ここでいう道具とは、生活には欠かせないものである。私たちの生活を豊かで、便利にしている道具が昔はどのようなものだったのか、今では見るのが少なくなったものを、両親や祖父母といった身近な人たちへの聞き取りや歴史博物館への見学による調査活動、また自分の生活経験に基づく現在の暮らしと比較して考えさせることを大切にしていく。

地域社会、延いては日本は古くから外国の物や文化を上手に取り入れて自国化することによって、文化を発展させたり生活を豊かにしたりしてきた歴史がある。この単元においても、自分たちの暮らしをよりよくしたいと願った昔の人たちの知恵と工夫が表れた物として、外国から取り入れた昔の道具について追究していくこととする。

新潟の冬は寒く、暖房器具を欠かすことはできない。屋内では、ストーブやこたつ、屋外ではカイロを使う。子どもにとっても当たり前に使っている身近な道具である。今回取り上げるのは、ストーブとカイロである。ストーブは、現在は石油ファンヒーターが中心である。もともと江戸時代末期、イギリス船から運ばれ、北海道で使われた石炭ストーブが始まりである。一般家庭に広まるのは大正時代以降で、それまでは火鉢が広く使われていた。時代が進み、燃料の変化に合わせて、石炭、石油、ガスと様々な種類のストーブが普及していった。1950年代以降は、イギリス人によって作られた石油ストーブが広まった。その後は、日本の企業による開発競争によって、独自の発展を見せた。一方、カイロは、現在主流となっているのが使い捨てカイロである。これは、1970年代にアメリカで使用されていたフットウォーマーを基に、日本の企業が開発、販売した物で、安価で簡便なことから、それまで主流だった白金触媒式カイロに代わって急速に広まっていった。その白金触媒式カイロも、1920年代にイギリスで使用されていたライターを参考にして、日本人が開発した物である。これは、金属製の容器に燃料を入れ、点火すると長時間継続して使用することができる。

ストーブもカイロも外国の物を取り入れて自国化し、暖かい生活をする上で欠かせない道具になっていった物である。子どもにとっては普段から何気なく使っている使い捨てカイロ、それ以前に広く使われていた白金触媒式カイロでさえも、外国に由来する道具であること、日本が外国の物や文化を取り入れながら生活を豊かにしてきたと、とらえることができる。3年生の社会科において、身近な地域を対象とした学習をする中で、地域の中の国際化、日本の文化の特徴をとらえさせることは、6年間の教育課程を見通したときに国際理解教育の資質・能力の育成にもつながっていくことを意図している。

3 本単元で目指す姿

外国とのかかわりを視点に、多角的に昔の暮らしの特色を考える子ども

具体的には、「昔の人も寒い季節を暖かく暮らすために、知恵を働かせてストーブやカイロなどの道具を安全に使いやすくする工夫をしてきた。そのときに、外国の物を取り入れて新しい物を作ってきた。それが今の自分たちの生活にもつながっているから、昔の人の知恵や工夫はすごい」などと考える姿

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全10時間 (30Q)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに昔の道具について、身近な家族への聞き取りや歴史博物館への見学をして調べ活動をしている。その中で、道具は、時間が経つにつれて安全で便利に、使いやすく進化してきたこと、それは昔の人々の知恵や努力があったからだにとらえている。しかし、外国とのかかわりという視点から暮らしの移り変わりについて考えてはいない(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

新潟市の12月の気温を提示して寒いときに使う道具を問い、60年前・30年前の暮らしについて疑問に思うことを問う。

寒い冬を暖かくする暮らしの移り変わりについて、問いをもたせるための働き掛けである。

まず、現在の新潟市の気温を提示する。子どもはここのところ寒くなってきたと反応する。そんな寒いときに使う道具を問う。子どもは寒い季節に家で使っている暖房器具を想起して、「ストーブ」や「こたつ」などと答える。また、登校時に使っているカイロを想起する子どももいる。そのとき、屋内で使う物と屋外で使う物に分類して板書し、それぞれでよく使う物は何かと問う。子どもは、屋内ではストーブ、屋外ではカイロを挙げる。この後に追究する道具をこの2つにするため焦点付けておく。次に、60年前・30年前の新潟市の気温を提示する。子どもは、「今よりも昔の方が気温が低い」という事実に気付く。そこで疑問に思うことを問う。子どもは「今より寒いのにどうやって暖まっていたのか」「ストーブやカイロは使っていたのか」と疑問を表出し、それらをまとめて「今より寒いのにどうやって暖まっていたのか。ストーブやカイロは使っていたのか」を学習問題として設定する。

働き掛け2

学習問題に対する予想、学習問題を解決するための方法を問う。

学習の進め方に見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を設定した子どもに、この時点での予想を問う。このときの予想が、課題解決をするときの視点となるからである。子どもは、これまでの生活経験や学習を想起し、「今と同じようにカイロを使って暖かくしていた」「今と似たような道具を使っていたはずだ」などと考える。次に学習問題を解決するための学習の進め方を問う。同じようにこれまでの学習を想起して、どんな道具を使っていたのか、どんな暮らしをしていたのか、家族に聞いてみたら分かるかと考える。

働き掛け3

課題解決のための調査活動の時間を設定する。

寒い冬を暖かくするための知恵や工夫を調べ、学習問題の解決に必要な情報を収集させるための働き掛けである。

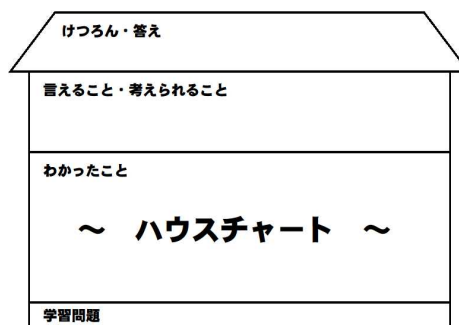
学習の進め方に見通しをもった子どもに、課題解決のための調査活動を行う時間を設定する。子どもは、「時間の経過に着目する」「地域の人々の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、どんな道具を使って、どんな暮らしをしていたのかを自分の家族に聞いて調べる。ストーブについて、父母に聞くと「子どものころ、反射式ストーブを使っていた。マッチを擦って火をつけていた」といったようなことを知る。また、祖父母に聞くと「ストーブよりも火鉢を使うことの方がまだ多かった。炭を使って暖かくしていた」といったようなことを知る。また、カイロについて、父母に聞くと「子どものころ、今のような使い捨てのカイロを使うようになった。カイロをこすると暖かくなって便利だ」といったようなことを知る。また、祖父母に聞くと「使い捨てカイロはなく、白金カイロという金属の入れ物に燃料を入れて暖かくしていた。使い捨てカイロより長く暖まることができた」といったようなことを知る。このように、一人一人が家族から、当時の暮らしの様子について聞き取ってくる(①知識・技能)。

働き掛け4

ストーブとカイロを使った暮らしが分かる資料とツールを提示する。

昔の暮らしにおける外国とのかかわりをとらえさせるための働き掛けである。

家族から収集した情報を共有した子どもに、調べたことを確かめるためのストーブとカイロを使った暮らしが分かる資料を提示する。子どもは、資料を読み取ることで家族から話を聞いて分かったことを確かめるとともに、気付いていなかった事実に気付く（①知識・技能）。それは、白金カイロやストーブが外国から取り入れた物であること、使い捨てカイロやファンヒーターが日本の企業によって開発・販売されたことである。調査活動と資料から、分かったことをまとめさせるためにハウスチャートを提示する。子どもは班で話し合い（協働性）、「60年前に使われていた白金カイロは、外国にあったライターを参考にして日本人が考えて作った物だった」「白金カイロに代わって使われるようになった使い捨てカイロはアメリカにあった物を日本に取り入れて使い始めた」といったことを書き出す。さらに、「空間的な広がり、時間の経過に着目する」「地域の人々の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、分かったことから言えること、考えられることへと関連付けて（②思考力・判断力・表現力）、「どれも暖かく暮らしたいと願っていた」「ストーブもカイロもどちらも外国の物から始まった」などと考える（⑤ツール活用能力）。



働き掛け5

学習問題の結論、昔の人に対する思いを問い、これまでの学習を振り返らせる。

外国とのかかわりの視点から、昔の暮らしの特色を考えさせ、発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

分かったことから言えること、考えられることへと関連付けて考えた子どもに、学習問題の結論を問う。子どもは、「空間的な広がり、時間の経過に着目する」「地域の人々の生活と関連付けて考える」などの社会的な見方・考え方を働かせながら、「昔の人も寒い季節を暖かく暮らすために、知恵を働かせてストーブやカイロなどの道具を安全に使いやすくする工夫をしてきた。そのときに、外国の物を取り入れて新しい物を作ってきた」と、これまでに考えたことを総合し、昔の暮らしの関する特色を考える（②思考力・判断力・表現力）。さらに、昔の人に対してどう思うかを問う。子どもは、昔の人が外国の物を取り入れる知恵を働かせてきたことをとらえているため、「それが今の自分たちの生活にもつながっているから、昔の人の知恵や工夫はすごい」という思いを表出する（③態度）。これが、外国とのかかわりを視点に、多角的に昔の暮らしの特色を考える子ども（Cn）の姿である。

学習の最後に振り返りとして、これまでにどのような学習をして、どのように考えたから、何が分かるようになったか、何ができるようになったかを記述させる。子どもは自分の学習を振り返り、課題解決において発揮した資質・能力を自覚する。

7 本時の構想（本時 9/10時間）

(1) ねらい

寒い冬を暖かくする暮らし方について、家族への聞き取り調査や資料を調べることを通して、暖かく暮らそうとするために、道具を工夫したり外国の物を取り入れる知恵を働かせたりしてきたと考えることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 昔の道具について、身近な家族への聞き取りや歴史博物館への見学をして調べ活動をしている。
- 道具は、時間が経つにつれて、安全で便利に、使いやすくなって進化してきたことをとらえている。
- 昔の人々が生活をよくしたいと考えて、道具を便利で使いやすくなるように知恵を働かせてきたことをとらえている。

- 外国とのかかわりの視点から、暮らしの特色について考えてはいない。

このように働きかけると【働き掛け1】

- 現在の新潟市の12月の気温を提示して寒いときに使う道具を問う。
- ・説明「もうすぐ冬になりますね。12月の平均気温は7.0℃になります」
 - ※ 新潟市の昨年12月の平均気温を提示する。
 - ・発問「寒くなってきますね。みんなは寒いときには、どんな道具を使いますか」
 - ※ 出された意見を屋内と屋外に分類して板書する。
 - ・発問「この中であなたが家の中でよく使う道具はどれですか」
 - ・発問「この中であなたが家の外でよく使う道具はどれですか」
- 60年前・30年前の寒い季節の暮らしについて、疑問に思うことを問う。
- ・説明「昨年の12月は平均が7.0℃でしたね。30年前の12月は平均気温が6.1℃でした。60年前は2.9℃でした」
 - ※ 新潟市の60年前・30年前の12月の気温を順に提示する。
 - ・発問「60年前・30年前の12月の気温のことから、疑問に思うことはありますか」
 - ※ 子どもが疑問に思うことをつぶやいたら、それを取り上げる。
 - ※ 疑問に思うことをノートに記述させる。
 - ・指示「疑問に思ったことを発表しましょう」
 - ※ 寒い季節の暮らし方に焦点付けて学習問題を設定する。
 - ・発問「今日の学習問題は『昔は今より寒いのにどうやって暖まっていたのか。ストーブやカイロは使っていたのか』でいいですか」
 - ※ 設定した学習問題に同意できるかを確認して次へ進む。

このようになり (G1)

- 寒い季節に自分が使う道具を考える。
- ・最近寒くなってきたし、12月はもっと寒くなるのだな。
 - ・寒くなるのは嫌だな。
 - ・冬は寒いから嫌いです。
 - ・寒くなって使うのは、ストーブです。もう家で使っています。
 - ・こたつです。冬はこたつでご飯を食べます。
 - ・カイロです。登下校の時に手が冷たくなるので持っています。
 - ・家の中でよく使うのは、ストーブです。すぐに暖くなるからです。
 - ・家の外でよく使うのは、カイロです。学校に行くときにいつも使っています。
- 昔の寒い季節の暮らしに関する学習問題を設定する。
- ・60年前の気温はずいぶん低い。
 - ・今より30年前、30年前より60年前の方が気温が低くて寒かった。
 - ・今より寒いのにどうやって暖まっていたのだろう。
 - ・自分たちが使っているようなストーブやカイロは使っていたのか。
 - ・どんな道具を使って暖かくしていたのだろうか。
- ◎ 昔は今より寒いのにどうやって暖まっていたのか。ストーブやカイロは使っていたのか
(学習問題)
- ・この学習問題でいいです。
- ※ のように、昔の寒い季節の暮らし方に疑問を抱いている記述をしていたら、問いをもった姿とみなす。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 学習問題に対する予想を問う。
- ・指示「学習問題に対して予想をしてみましよう」
- 学習問題を解決するための学習の進め方を問う。
- ・発問「この学習問題を解決するために、これからどうやって学習を進めていきますか」
 - ※ 予想と解決の仕方をノートに記述させる。
 - ・指示「60年前、30年前の様子を知りたい、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんに話を聞きたいと考えているのですね。それでは、自分が調べたい方法で学習

問題を解決するために必要な情報を探してきましょう」

このようになり (C2)

- 学習問題に対して予想を立てる。
 - ・今と同じようにカイロを使って暖かくしていた。
 - ・何か暖まるための道具があったと思う。
 - ・今と似たような道具を使っていたはずだ。
- 学習問題を解決するための方法を考える。
 - ・60年前、30年前のことはおじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんに聞くと解決できると思う。
 - ・道具調べをしたときのように、家族に話を聞けば分かると思う。
 - ・家族に聞いたり本を調べたりすれば分かりそう。

このように働きかけると【働き掛け3】

- ・指示「課題を解決するために家族に聞いて調べてきたいということなので、60年前・30年前のストーブとカイロについて家に帰って調べてきましょう」
- ※ 分かったことをノートに記述させる。

このようになり (C3)

- 寒い冬を暖かく過ごすためにどうしていたのか、家族に話を聞いて調べる。
 - ・父母が子どもころ、今の使い捨てのカイロを使うようになった。
 - ・こするだけで簡単に暖かくなって便利。今でも使っている。
 - ・ストーブは石油ストーブで、四角い形で反射する鏡があった。
 - ・祖父母が子どもころ、白金カイロという金属の入れ物に燃料を入れて暖かくしていた。
 - ・燃料を入れるのは大変だったが、長く暖まることができた。
 - ・ストーブは石油ストーブで、丸い筒のような形で芯に火をつけていた。
 - ・道具を使って体を暖かくすることができた。
- ※のように、家族に聞き取り調査を行い、60年前・30年前のストーブ、カイロを使った暮らしについて分かったことをノートに記述していたら、資質・能力①を発揮したとみなす。

このように働きかけると【働き掛け4】

- ストーブとカイロを使った暮らしに関する資料とハウスチャートを提示する。
 - ・発問「家族に話を聞いて調べてみたらどうでしたか」
 - ・指示「家で調べて分かったこととよく分からないことがあったようですね。資料を用意したので、その資料からも調べましょう」
 - ・発問「それでは、分かったことをどのようにまとめていきますか」
 - ・指示「それではハウスチャートを使うとよいということなので、班に一枚ずつ配付します」
 - ・指示「これまでに分かったことと資料から分かることをハウスチャートにまとめていきます。分かることを書き出しましょう」
- ※補助発問「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」

このようになる (C4)

- 調査活動で分かったことを交流する。
 - ・お父さんお母さんに話を聞いて分かったことがあった。
 - ・おじいちゃんおばあちゃんの話はよく聞けなかった。
 - ・お父さんお母さんが子どもころ、今も使っている使い捨てカイロを使うようになった。
 - ・おじいちゃんおばあちゃんが子どもころ、白金カイロという金属の入れ物に燃料を入れて暖かくしていた。
- これまでの学習で分かったことをツールにまとめる。
 - ・今までも分かったことをまとめるときは、ハウスチャートを使ってきたから、今回も同じように班のみんなでやればいい。
 - ・使い捨てカイロはアメリカにあった物を日本に取り入れて使い始めた。
 - ・白金カイロは外国にあった物を参考にして日本人が考えて作った物だった。

- ・使い捨てカイロも白金カイロもどちらも外国の物から始まった。
- ・日本で最初のストーブは、ヨーロッパから石炭を使うダルマストーブだった。
- ・イギリスで作られた石油ストーブが広まっていった。
- ・昔の人は、自分たちが暖かい暮らしをするために、外国の物も取り入れていた。
- ・最初は外国の物が入ってきたけど、後から日本で作られるようになってきた。

※ のように、調査活動と資料から分かったことを関連付けて外国とのかかわりをとらえた記述をしていたら、資質・能力①②を発揮したとみなす。

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 学習問題に対する結論を問う。
 - ・発問「学習問題の結論はどうなりますか」
- 昔の人々に対する思いを問う。
 - ・指示「それでは、昔の人々に対してどう思いますか」
 - ※ ノートに自分の考えを記述させる。
- 学習の振り返りを記述させる。
 - ・指示「これまでの学習を振り返って、どのように学習をしたら、どんなことが分かりましたか。どんなことができるようになりましたか」

このようになる (Cn)

- 学習問題の結論を考える。
 - ・昔の人も寒い季節を暖かく暮らすために、知恵を働かせてストーブやカイロなどの道具を安全に使いやすくする工夫をしてきた。そのときに、外国の物を取り入れて新しい物を作ってきた。
- ※ のように、外国とのかかわりを視点に、地域社会の特色を考えた記述があれば、資質・能力②③を発揮したとみなす。
- 学習問題の結論に対する自分の考えとして、昔の人への思いを記述させる。
 - ・昔の人が知恵を働かせてきたことが今の自分たちの生活にもつながっているから、昔の人の知恵や工夫はすごい。
- これまでの学習を振り返る。
 - ・昔の人が外国の物を取り入れながら暖かい暮らしをしようと知恵を働かせていたことを資料を調べて分かりました。ハウスチャートを使って調べたことをまとめ、みんなで話し合ったりしたから考えることができました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、 のように、学習問題の結論として、外国とのかかわりを視点に、昔の暮らしの特色を考えることができたかを、ノートへの記述から判断する。
- ② 働き掛け3, 4, 5を受けて、社会的な見方・考え方を働かせているかどうかを、発言や活動の様子、ノートへの記述から判断する。
- ③ ア 働き掛け3を受けて、 のように資質・能力①を発揮して、学習問題の解決に必要な情報を収集できたかどうかを、ノートへの記述から判断する。
イ 働き掛け4を受けて、 のように資質・能力②を発揮して、調査活動と資料から分かったことを関連付けて外国とのかかわりをとらえたかどうかを、ノートへの記述から判断する。
ウ 働き掛け5を受けて、 のように資質・能力③を発揮して、地域社会に対する誇りをもつことができたかを、ノートへの記述から判断する。
- ④ 働き掛け5を受けて、 のように発揮した資質・能力を自覚することができたかを、ノートへの記述から判断する。